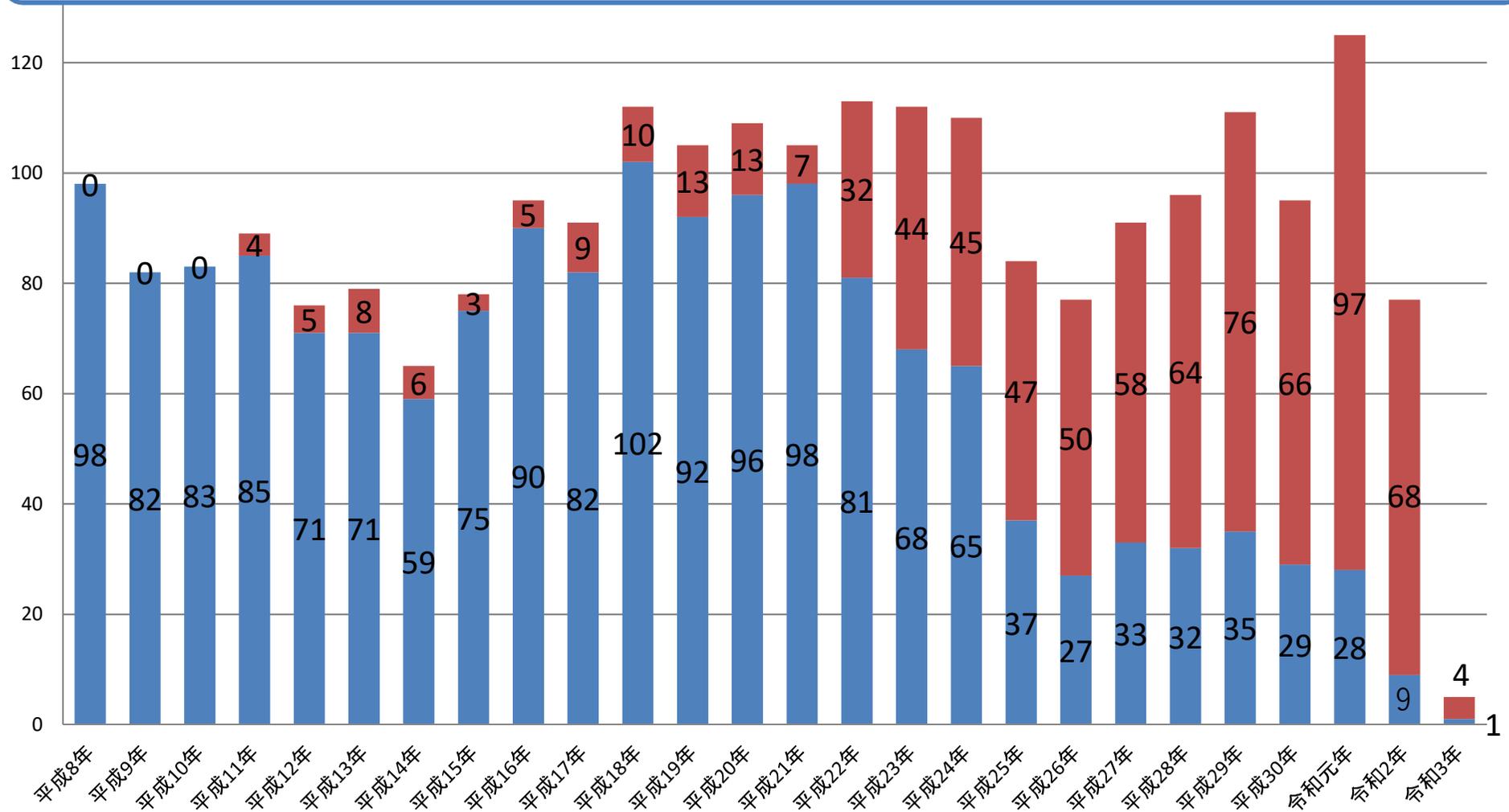


# 臓器移植医療の現状と対策

## 臓器提供の件数の推移(年別)

近年脳死下臓器提供数は増加しているが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年と比較すると減少した。



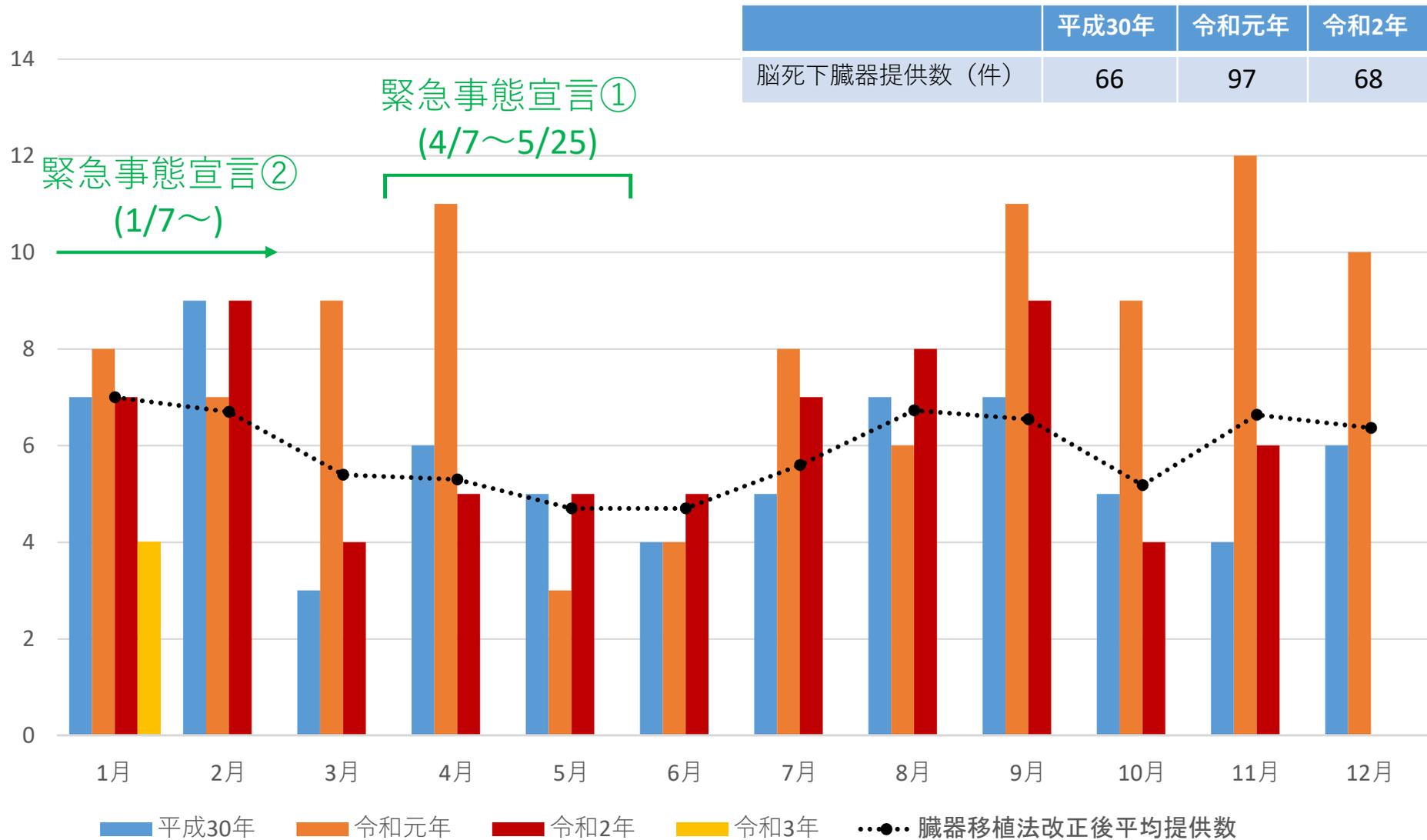
令和3年1月31日現在

- 脳死(提供可能臓器) 心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓、小腸、眼球(角膜)
- 心停止(提供可能臓器) 膵臓、腎臓、眼球(角膜)

(公社)日本臓器移植ネットワーク資料より作成

# 脳死下臓器提供数（月毎）

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、令和元年と比較すると提供数の低下が見られた。



# 新型コロナウイルス感染症流行下の臓器移植医療における課題

## ○提供施設側

- ・新型コロナウイルス感染症患者受入のために救急の現場での時間的、人的余裕がない
- ・患者家族との面会の機会がなく説明を行う事が難しい（家族から申し出ることも困難）
- ・臓器提供の際、外部から多くの医療関係者が来院することに不安が大きい

## ○移植施設側

- ・摘出手術のため自施設から提供施設にスタッフを派遣、移動による感染の伝播の可能性がある（非感染地域から感染地域、感染地域から非感染地域の移動）

## 厚生労働科学特別研究事業による取組

現状、令和2年3～5月の臓器提供数の大幅な減少を受け、提供施設・移植施設等における実態調査を行うため、厚生労働行政推進調査事業補助金を用いて以下の特別研究を実施（研究期間：令和2年10月～令和3年3月）

	研究課題名・代表研究者	研究内容・アウトカム
1	コロナ禍における脳死下・心停止下臓器提供経験施設の実態調査に基づく新たな臓器提供体制構築に資する研究<提供施設>	<p>（研究内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症流行下の臓器提供実施施設の現状調査</li> <li>・新型コロナウイルス感染症蔓延下で安全に臓器提供を実施するためのチェックリスト作成</li> <li>・ドナーアクションプログラムによる院内体制構築</li> </ul>
	聖マリアンナ医科大学医学部 脳神経外科学 准教授 小野元	<p>（アウトカム）</p> <p>新型コロナウイルス感染症蔓延下においても移植待機患者が安心して移植を受け、また安全で負担のない臓器提供・移植が行われるためのシステムの提言</p>
2	新型コロナウイルス感染症流行時に移植実施施設において脳死下・心停止下臓器移植医療を維持推進するための調査研究<移植施設・脳死心停止後>	<p>（研究内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳死下・心停止下臓器移植実施施設への現状調査</li> <li>・臓器摘出術の互助制度確立のための現状調査</li> <li>・臓器提出手術器械業者搬送システム確のためのシミュレーション</li> </ul>
	藤田医科大学医学部 移植・再生医学講座 准教授 伊藤泰平	<p>（アウトカム）</p> <p>COVID-19流行期およびポストCOVID-19期を見据えた新しい臓器摘出、臓器搬送体制の構築</p>
3	新型コロナウイルス感染症患者増加に伴う社会情勢下において、安心安全に生体肝・腎移植を継続するための診療体制構築を目指した研究<移植施設・生体>	<p>（研究内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体間移植実施施設に対するアンケート調査</li> <li>・移植後患者支援システム（アプリ）の開発</li> </ul>
	神戸大学医学部附属病院 肝胆膵外科 助教 蔵満薫	<p>（アウトカム）</p> <p>新型コロナウイルス感染症下においても従来と同じ成績で生体間移植を維持できる新たな移植体制の構築</p>

# 令和3年度移植医療対策関係予算(案)の概要

【令和2年12月 移植医療対策推進室】

## 臓器移植対策の推進

8. 3億円（7. 7億円）

■ 適正で円滑な臓器移植の実施を推進するため、臓器提供施設の連携構築やドナー家族支援の充実などに取り組むとともに、臓器提供に関する意思表示を促進するための普及啓発の取組を行う。

臓器移植対策事業費（日本臓器移植ネットワーク運営費）

8.0億円（7.5億円）

臓器のあっせん業務について中心的役割を果たす日本臓器移植ネットワークの専門職員の確保とともに、地域における臓器提供施設の整備を推進するなど、公平かつ適正なあっせんを通じた臓器移植の実施のための体制整備を図る。

・増 院内体制整備支援の充実

104百万円（84百万円）

地域に偏りなく、臓器提供施設が整備されるよう脳死判定時のマニュアルの整備や摘出手術のシミュレーション等を実施しているところであるが、これまでの支援に加えて、新型コロナウイルス感染症の流行地域であって医療機関への影響が大きいと考えられる地域において重点的に事業を実施する。

・増 臓器提供施設の連携体制の構築

72百万円（50百万円）

地域における臓器提供施設間の連携を推進するため、臓器提供事例が多い施設から少ない施設等に対し、体制整備等のノウハウの助言や臓器提供事例発生時における脳死判定医の応援等の支援を実施しているところであるが、これまでの支援に加えて、新型コロナウイルス感染症の流行地域であって医療機関への影響が大きいと考えられる地域において重点的に事業を実施する。

・新 ドナー家族支援の強化

9百万円

脳死下臓器提供におけるドナー家族の意思決定やその後の長期フォローにおいては、それぞれのドナー家族の心情に寄り添ったケアが重要であり、その方法を向上させていく必要がある。新型コロナウイルス感染症の影響により、提供後のドナー家族への面会は極力控える対応となり、これまで以上にきめ細やかなアプローチが必要とされることから専門性のある臨床心理士等を配置する

## 普及啓発事業費

26百万円（ 25百万円）

臓器提供に係る意思表示が可能となる15歳を対象とした中学3年生向け啓発冊子の作成・配布のほか、脳死下での臓器提供事例の検証のために必要な経費を確保すること等により、国民の移植医療への理解や意思表示の必要性について啓発を図る。

**（参考）【令和2年度第三次補正予算案】**

**移植対象者（レシピエント）検索システムの機能改改善**

**1.9億円**

レシピエント検索システムは、移植希望者の登録・更新事務からレシピエント選択基準（臓器毎の優先順位の考え方）に沿った移植対象者の優先順位付けまでを担保する、迅速かつ正確なあっせん業務を実施するために不可欠なシステムである。

同システムは、長期間運用していることから、引き続き安定して稼働させるためにシステムの機能改善を行う。

## 移植医療研究の推進

1. 5億円（1. 5億円）

■ 臓器移植・造血幹細胞移植・組織移植のそれぞれについて、社会的基盤に関する研究及び成績向上に関する研究を推進する。

※厚生労働科学研究費、保健衛生医療調査等推進事業費（大臣官房厚生科学課計上分）